

「晩年」と「女生徒」

太宰治

青空文庫

「晩年」も品切になつたようだし「女生徒」も同様、売り切れた
ようである。「晩年」は初版が五百部くらいで、それからまた千
部くらい刷つた筈はずである。「女生徒」は初版が二千で、それが二
箇年経つて、やつと売切れて、ことしの初夏には更に千部、増刷
される事になつた。「晩年」は、昭和十一年の六月に出たのであ
るから、それから五箇年間に、千五百冊売れたわけである。一年
に、三百冊ずつ売れた事になるようだが、すると、まず一日に一
冊ずつ売れたといつてもいいわけになる。五箇年間に千五百部と
いえば、一箇月間に十万部も売れる評判小説にくらべて、いかに
も見すぼらしく貧寒の感じがするけれど、一日に一冊ずつ売れた

というと、まんざらでもない。「晩年」は、こんど砂子屋書房で四六判に改版して出すそうだが、早く出してもらいたいと思つてゐる。売切れのままで、二年三年経過すると、一日に一冊ずつ売れたという私の自慢も崩壊する事になる。たとえば、売切れのままで、もう十年経過すると、「晩年」は、昭和十一年から十五箇年のあいだに、たつた千五百部しか売れなかつたという事になる。すると、一箇年に百冊ずつ売れたという事になつて、私の本は、三日に一冊か四日に一冊しか売れなかつたというわけになる。多く売れるという事は、必ずしも最高の名誉でもないが、しかし、なんにも売れないよりは、少しでも卖れたほうが張り合いがあつてよいと思う。けれども、文学書は、一万部以上売れると、あぶ

ない気がする。作家にとつて、危険である。先輩の山岸外史氏の説に依ると、貨幣のどつきりはいつている財布を、^{ふところ}懷にいれて歩いていると、胃腸が冷えて病氣になるそうである。それは銅錢ばかりいれて歩くからではないかと反問したら、いや紙幣でも同じ事だ、あの紙は、たいへん冷く、あれを懷にいれて歩くと必ず胃腸をこわすから、用心し給え、とまじめに忠告してくれた。富をむさぼらぬように気をつけなければならぬ。

青空文庫情報

底本：「太宰治全集10」やくも文庫、筑摩書房

1989（平成元）年6月27日第1刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集第十巻」筑摩書房

1977（昭和52）年2月25日初版第1刷発行

初出：「文筆 夏季版」

1941（昭和16）年6月20日発行

入力：杜十郎

校正：土屋隆

2003年9月4日作成

2016年7月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

「晩年」と「女生徒」

太宰治

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>